

1 MMチューニングカーテスト第1弾

カローラ27レビン

最高速度=191.48km/h 0~400m=14.93秒

テスト日時は1973年12月5日、ベースモデルは“レビン”の名を初めて冠したカローラ27型。思えば、当時は第一次オイルショックが没発、世のモータリゼーションが沈滞ムードの時に、いわゆる“走り屋”さんの車の性能をチェックしてみようという狙いで、このチューニングカー・スピード・トライアルがスタートしたわけだ。さて、この27型スーパーレビンは“速かった”という記憶が強い。当時のテストレポートを記せば、「まずトライしたのはマキシマム・スピード。夜明けの白くなりかけた

コースにマーシャルのランプを真白に点灯したレビンは矢のように走り出す。きわめて配分の良いミッションは150PSのパワーを有効に引き出し、レビンを軽々とスピードアップさせるが、初回のトライでは7000rpmあたりにフラットスポットが発生してコンディションは上々といえない。それでも、やや甘めのスピードメーターは190~195km/h、次のラップで200km/hを越え、“なるほどこれはすごいワイ”と一人車の中でニンマリする。といったレポートが続いていた。



2 3ℓ・Zのスピードレコードを長期間保持し続けたクボZ

←L型チューンの名手、久保氏の作品、L28改3ℓスペシャル

フェアレディZ-L 3ℓスペシャル

最高速度=240.80km/h 0~400m=14.53秒

チューニングZキングの座を長期間保持したチャンピオンマシンである。この後、数多くのチャレンジャーが現われたが、この3ℓ・Zの“スピードの壁”とでもいうべく240.80km/hのスピード記録は破れなかった記念すべきマシンである。当時のテストレポートを紹介すれば、「コックピットに座っても何ら普通のZと異なることはない。しかし、それはシフトレバーを1速に入れてクラッチをミートしアクセルを踏む直前までである。アクセルを開けてクラッチをつなぐと強烈な加速感が脳天の

先まで伝わり、この車が並々ならない性能を有していることは200mも走行してみれば明白となる。1周目でもう230km/h台のタイムが出てしまったらしい。それから数ラップのトライアルで、なんと240.80km/hという、とてつもないスピードをたたき出してしまった。テフギアのレシオは3.545を使い、この時の回転数は6500rpmを指していた。低回転域からスムーズなエンジンで最高速240km/h、これには高価な外車のスポーツカーのオーナーも顔色なしといった感じだろう。」

3 異色テスト第9弾レーシングカーの世界

ローラT212

最高速度=275.86km/h

0~400m=10.80秒

2ℓのGCマシンの最高スピードは如何に? という単純な疑問から、このレーシングカーのテストを行なった。結果は275.86km/h、0~400m加速=10.80秒という、やはり“速い”データを記録している。以後、この種のレーシングマシンはMMではテストしていないので、2ℓクラスレーシングカーのスピード記録保持車として永遠に我がデータバンクに記録されている次第だ。

津々見友彦氏のオーナー兼テストレポ

ーターの報告によれば、「私達の開発したローラT212は、主としてエンジンの非力をおぎなうために、ボディまわりの空力的な処置にかなり気をつけてデザインした。そのため、ストレートの速度は、BDAのエンジンが絶好調な時には、他のスポーツカーを圧倒するほどの速さを持っている。さて、いよいよ最高速テストにアタックしてみよう。バンクの中では9000rpm(268km/h)、そしてバンクを飛び出しストレートの計測地点に近づくにしたがって、タコメーターは徐々に上がり出してくる。9100、9200、9250rpm、もうこれ以上は無理である。その時の速度は275.33km/h。さすがに速いし、速く感じる。」

